

来庁者を安全かつ迅速に避難誘導する職員

10月13日【新市庁舎】

新市庁舎で津波想定の避難場所検証訓練 誘導経路の課題を検証

9月に開庁した新市庁舎で、避難場所検証訓練が行われ、近隣住民らが参加しました。新市庁舎4階は、地震津波と洪水、土砂災害の指定緊急避難場所になっており、市職員が来庁者や避難者の誘導、受け入れ導線を確認しました。参加者のアンケートも踏まえ、課題を抽出し、実際の災害発生時に安全、円滑に避難できるよう、平時から備えを進めます。



紅葉で彩られた山あいを駆け抜けるランナーたち

10月25日【仙人峠】

高低差に挑む! 秋めく仙人峠を駆け抜ける

第17回かまいし仙人峠マラソン大会が、甲子町大橋の旧釜石鉱山事務所を発着点に開かれました。北海道から九州まで全国各地から集まった276人のランナーが、高低差最大400ｍの難コースに挑戦し、紅葉で色づく峠道を力いっぱい駆け抜けました。大会の運営には、市民ボランティアが協力し、給水ポイントでの選手サポートや完走証の発行などの活動に取り組みました。



釜石高校の生徒と交流

10月25日～30日【釜石市内】

Welcome to KAMAISHI! ミネルバ大学がエクスカーション

当市が包括連携協定を締結している米ミネルバ大学の学生39人が、昨年度に引き続き当市を訪れ、10月26日から7日間にわたりフィールドワークを実施しました。同大学は、世界で最も革新的な大学とされており、今回のプログラムで東日本大震災からの復興や防災への取り組みを学んだ他、地元住民や釜石高校の生徒との交流などを行いました。学生たちは、さまざまな学びや地域住民、高校生との交流を通じて、釜石の持つ多様な魅力や地域課題について幅広い視点から理解を深め、当市にとっても世界各国から集った学生たちのさまざまな意見を得る貴重な機会となりました。



ゴジョるでまき割りにも挑戦



鵜住居で潮風トレイルを歩く

10月1日【甲子中学校】

甲子プロフェッショナルズ ～教科書にはない、達人の流儀～

スポーツや文化など各種分野で活躍する地域の先輩を講師に迎えてのミニ授業が甲子中学校で行われました。地域との結びつきや同校生徒会の活動の発信を目的に、「新たな行事を作り出したい」という生徒会からの発案により実現したものです。この日は6人の達人が講師となり、それぞれに情熱を持って取り組んできた活動から得たものを伝え、生徒たちは豊かな人生を歩む上でのヒントや地域の魅力を学びました。



松倉に伝わる太神楽と虎舞について紹介する達人

10月5日【釜石消防庁舎】

「消防団員募集」を走行バスでPR 岩手旅行社を消防団協力事業所に認定

大渡町の岩手旅行社が、消防団協力事業所に新たに認定されました。同社は、市からの委託を受け運行している支線部バスの車両などに「消防団員募集」のステッカーを掲示し、走行で市民に入団を呼びかける活動を始めました。自然災害が頻発し、災害規模が大きくなっている昨今、消防団員の確保は大きな課題です。同社の取り組みが、消防団活動に興味関心を持ってもらうきっかけになり、積極的な入団につながることが期待されます。



走行するバスで消防団員募集をPR

10月5日【市長室】

かまいし夜市おいでんせ実行委員会 令和8年熊本地震へ義援金

8月10日に開催された「かまいし夜市おいでんせ」にて、令和8年熊本地震災害義援金の募集が行われました。そこで集まった義援金を、同実行委員会の皆さんが、釜石市長（日本赤十字社岩手県支部釜石市地区長）に届けてくださいました。義援金を寄せてくださった皆さんの善意に感謝し、全額を日本赤十字社を通じ、熊本県義援金配分委員会に送りました。



かまいし夜市おいでんせ実行委員会の皆さん

10月10日【鵜住居復興スタジアム周辺】

すすめよう、私のスポーツ 釜石健康マラソン大会

第52回釜石健康マラソン大会が、鵜住居復興スタジアムを発着点に開催されました。市内外の2歳から88歳の304人が参加し、秋晴れの下、心地よい汗を流しました。スポーツの日（旧体育の日）にちなんだ同大会は、釜石の秋を彩る伝統のスポーツイベントです。市球技場周辺から鵜住居復興スタジアム周辺に会場を移し、今年で7回目の開催となりました。



ゴールを目指して笑顔でスタート